

食いしん防災コミュニティ部会がいく！

(第70回 2024年3月)



食いしん防が通った中学校は、校舎も設備もとんでもなくオンボロだった。どれくらいひどかったかという、入学式の後に初めて教室に入る時に、担任の先生がたてつけの悪いドアを力ずくで開けようとして、ぶっ壊したほどだ。

学校にはいろいろな委員がありますね。風紀委員とか保健委員とか図書委員とか。うちの中学には修理委員というのがあった！ 壊れたものを買い換えるのではなく、可能なかぎり自分たちで修理して使い続けるのだ。修理できなかつたら？ そのクラスはそれ無しで数カ月を過ごさねばならなかった。学校に割り当てられた施設維持費では賄いきれないほど老朽化が進んでいたのである。

食いしん防は3年生の時に修理委員になった。しかも全校（20 クラスほどあった）のトップである委員長に選ばれてしまった。

仕方なく就いた座ではあったが、さっそく校内の電灯調査を行った。故障して点かない（もしくは外されたままの）電灯の場所と数をチェックしたのだ。結果は、すべての教室と廊下に、切れたままの電灯が1つ以上あるとわかった。全校で68か所、点かないまま放置されていた。ところが1か所だけ、全部の明かりが灯っている場所があった。職員室である。見てはいないが、おそらく校長室も。

「どういうこっちゃ、こりゃあ！」

修理委員長は教壇をたたいた（教壇は壊れ、後で修理するはめになった）。電灯だけでなく、職員室はどこもかしこもピカピカだった。

「生徒にはボロい教室で我慢させといて、自分らだけきれいな部屋でふんぞり返っているなんて。ゆ、ゆ、許せん！」

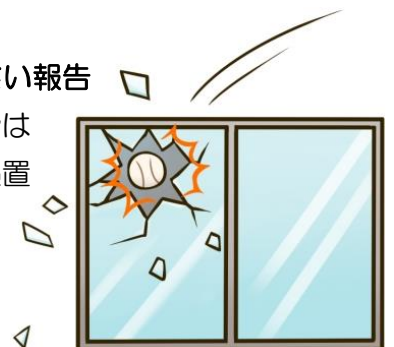
怒りに震えた委員長は、報復措置に出ることを、配下の委員たちに命じたのである。

この中学校、当然ながら壊れているのは電灯ばかりではなかった。窓ガラスの破損も、年間10枚を超えていた。さすがに割れたままはまずいので、嵌め換えたいのだが、高価なので自前の修理は避けたい。そこで、「窓ガラスは、壊した者（家）が弁償する」というルールが設けられていた。修理委員は、割った犯人を特定して学校に報告する捜査官のような役目も負っていた。

食いしん防のとった報復措置とは、窓ガラスを割った犯人をいっさい報告しない、というサボタージュだった。委員たちはそれを守り、修繕費はたちまち底をついた。2階以上の割れた窓は、段ボールなどで応急処置されたのみのもっともない事態と相成った。

「くっそう、修理委員のやつらめ……」

校長は地団太で床を踏み抜いたと伝えられている。



さて、自爆テロも同然なこのふるまいを、他の生徒たちはどう感じていたのだろうか？ 今となってはわからないが、強烈に覚えている出来事が1つある。

3学期、最後の修理委員会を終え、片づけをしていると、2人の下級生女子が思いつめたような顔で近づいてきた。殴られるのかと身構えると、彼女たちはこう言った。「委員長、握手してください」

どういつもりだったかはわからない。しかし女子から握手を求められたのは、後にも先にもこの時だけだ。

照れながら握った彼女たちの柔らかい手の感触を、卒業シーズンになると今も思い出してニヤけるのだった。



TOPICS

☆能登半島地震に学ぶ防災の必要性

こと防では2月にもブロックごとの活動をする予定だったが、元旦に発生した能登半島地震をうけて、全体研修に切り替えられた。

2月27日に行われた研修には、代理も含めて28人の防災推進員が参加。まず、市から被災地支援で珠洲市に派遣された、建築指導課の早苗賢一朗氏による被災現場の報告。写真を映しながらの説明に、参加者は聞き入っていた。通りに並んだ全部の家が倒壊している映像は衝撃的で、震度7の地震の恐ろしさをまざまざと感じさせた。また、住居の耐震化の重要性と、市が行っている補助の説明もされた。

続いて、防災危機管理課の馬見夏野子氏から、能登半島地震との比較を交えて、東近江市で起こり得る災害についての説明があった。この地域は海がないため津波被害は想定しなくてよいが、鈴鹿断層帯の直下型地震では、震度7の揺れに見舞われる恐れがある。その場合は家屋の被害や死傷者も相当数出ると想定されている。「滋賀は災害が少ないから」と安心することはできないのだ。

最後に、福祉政策課の曾根拓貴氏から、災害で亡くなる人を減らすための「個別避難計画」作成の必要性について説明があった。また、これまでの湖東地区の取り組みを振り返って、ぜひそれを続けていってほしいと述べられた。

こと防ではこれからも「災害死者ゼロ」をめざす取り組みを続けていく。



今後の活動予定

5年度の活動はとりあえず終了。
次年度に向けての準備を進めていきます。

※ 出前講座の申し込み受け付けます！



勝手にQ&Aコーナー

Q：個別避難計画の必要性はわかるのですが、誰かの避難を援助する役目を負っていて、それができなかった時に、責任を問われるのが怖いです。

A：仮に援助できなかったとしても、責任を問われることはありません。「困ったときはお互いさま」の助け合い精神でいきましょう！

Q：食いしん防が修理委員だったとは驚きです。HP の下手な文章は修理できないのですか？

A：これ以上はできません。てゆーか、そんなに下手ですか？

楽しい質問、お待ちしております！

(文責：こじまっちょ)

